

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K01011

研究課題名(和文) アラビア語歴史文献学の新天地：マムルーク朝年代記の校訂とデジタル化

研究課題名(英文) New horizons for the Arabic historiography: Editing and digitizing Mamluk chronicles

研究代表者

中町 信孝 (NAKAMACHI, Nobutaka)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70465384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：15世紀エジプトで書かれたアラビア語年代記『真珠の首飾り』の未刊行部分について、オンラインでの検討会および対面での研究会を継続的に行い、3ヶ年分の記述に相当する部分の校訂原稿を作成した。またリエージュ大学ポダン教授によるオンライン講演会や、同氏との対面での研究打ち合わせなどにより、歴史史料の校訂法、公開法について多くの知見を得た。これらの知見を、国際学会を含む論文、学会発表、およびワークショップにて公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

未刊行のアラビア語年代記の校訂は遠からず刊行予定であり、それにより中世イスラーム社会に関する基本史料が利用可能となることは、学術的に大きな意義がある。のみならず、校訂テキストに付される予定の日本語訳注は、研究者以外にこの領域に関心を持つ層にとっても計り知れない利益をもたらすであろう。また、史料学や校訂に関する講演会やワークショップを通して、中世イスラーム史料に関心を持つ多くの研究者との議論の土台を形成し、今後日本における当該領域の研究を促進することにつながったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：We have continued to hold the online and face-to-face sessions for the unpublished part of the Arabic chronicle, "Iqd al-juman", written in the 15th century Egypt, and have prepared edited text for the three year descriptions of it. We have also gained a great deal of knowledge about how to edit, publish, and digitize historical texts through online lectures by Frederick Bauden, professor of University of Liege and the other research discussions. These findings were presented in conference presentations, workshops, and research papers, including at international conferences.

研究分野：アジア史

キーワード：アラビア語文献学 校訂 デジタル化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

15世紀エジプトの歴史家アイニーによる年代記『真珠の首飾り』は、かねてよりその史料的重要性が認められながらも、未だに十分な校訂が行われていない。近年は部分的に同年代記の校訂が刊行されることがあったが、他の写本と混同したまま底本に用いるなど、時に不十分な史料調査に基づいていることがあり、学術的校訂の要件を満たすものではない。本研究代表者は、すでにこの年代記に複数のバージョンが存在することを指摘し、それぞれの関係性を明らかにしている。

また、欧米の研究者によるアラビア語写本の研究では「アーカイヴスの転回」の重要性が指摘されている。K.ハーシュラーは、写本の外形的特徴や、欄外書き込みなどのパラテキストを分析する「写本史料の文書の利用」を提唱しており、またF.ボダンはある歴史家の残した自筆本を考古学的資料として扱うことで、書物の伝播や読書のあり方、作品の生成過程、作者のライフヒストリーまでを考察する研究を行っている。こうした新しい文献学研究の手法は、本研究が対象とする作品についても十分に適応可能と考えられる。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、歴史文献学の手法に則って『真珠の首飾り』の主要部分の学術校訂テキストを作成し、当該地域・時代に関わる研究者の利用に供することである。その際、従来看過されてきた様々なヴァリエーションにも着目し、各写本の書写過程をも検討することで、正確な校訂テキストの作成を目指す。

第二の目的は、上記の文献学的検討の過程で得られる諸情報を利用して、当時のウラマーによる社会的実践のあり方を解明することである。特に、作者が残す「自己語り」的な情報や、写本に残されたパラテキストは、ウラマーの知の営みを具体的に物語る新たな材料となりうる。

第三の目的は、中世アラビア語史料の校訂とその成果の公開について、新たな見通しを提示することである。特に、校訂テキストを公開し広く共有する手段として、デジタル・ヒューマニティーズの手法を用いて電子テキスト化を行い、今後の可能性を広げていく。

3. 研究の方法

校訂テキストの作成について、対象となるのは『真珠』全19巻のうちマムルーク朝期に関する未刊行部分、第16巻の後半部以降である。作者による自筆本は残っていないため、以下の4写本を使用した。

- (a) バヤジト図書館所蔵 Veliiyuddin 2394 (1486年頃書写)
- (b) トルコ・イスラム美術博物館所蔵 Evkaf 2157 (1488年書写)
- (c) スレイマニエ図書館所蔵 Besir Aga 457 (18世紀書写)
- (d) サンクトペテルブルグ、アジア民族研究所所蔵 no. 350 (18世紀書写)

校訂の作業は翻刻、写本校合、固有名詞のインデクス作成、他史料との比較からなるが、さらに内容把握の手段として和訳を付す作業も行った。校訂作業チーム(五十嵐大介、伊藤隆郎、大山葉奈、亀谷学、久保亮輔、熊倉和歌子、笹原健、橋爪烈、原山隆広、三橋咲歩、山下智也、吉村武典が参加)を編成し、月に一度のペースでZoomを用いたオンライン検討会で校訂原稿を作成した。また2022年9月には、甲南大学において対面での校訂研究会を行い、校訂原稿の第二稿を確認した。

ウラマーの社会的実践の考察については、アイニーの年代記のさまざまなヴァリエーション写本(自筆本も含む)における前書きや奥付、欄外書き込みの情報を精査し、それぞれのヴァリエーションの関係性を分析した。また上記4写本を含む書写本の、オスマン朝期に書き込まれた書き込みの情報を収集し、これらの写本がオスマン朝期においてどのように受容され流布されていたかを再構成した。

史料校訂全般に関しては、すでに多くの校訂プロジェクトを率いてきた実績を持つリージェュ大学のF.ボダンとの研究交流を行い、校訂作業を続けていくうえでの具体的な留意点のみならず、成果公開のために利用可能なコンピューターソフトの情報なども共有した。また、テキスト・エンコーディング・イニシアチブ(TEI)に則った電子テキストの作成については、オンラインを中心とした研究会・講習会に参加しつつ、その手法を学んだ。

4. 研究成果

校訂テキストについては、ヒジュラ暦713~714年の記述については校訂原稿の第二稿の確認をほぼ終えており、対訳テキストとともに順次学術誌での公開を準備中である。715年については第一稿の確認を終えた段階にあり、今後第二稿の確認を行ったうえで公開したい。716年以降については今後も継続的に検討会を行っていきたい。

ウラマーの社会的実践については、ボン大学のS.コーネルマンと東洋文庫の三浦徹の共編によるマムルーク朝研究論文集の一編として、アイニーに帰せられた4年代記の関係を分析した英語論文が公開された(2020年度)。また和雑誌『西南アジア研究』に、オスマン朝期における

『真珠』諸写本の受容のあり方を論じた論文を投稿し（2021年度）、マールブルク大学で開催された第8回マムルーク研究大会では英語での学会発表を行った（2022年度）。

史料校訂のメソッドロジーとしては、F. ボダンによる校訂技術に関するオンラインレクチャーを開催し、多くの参加者を得た（2020年度）。2021年度に予定していた研究代表者によるリエージュ大学での在外研究はコロナ禍のため見合わせざるを得なかった。2022年度には東京大学駒場キャンパスで開催された日本オリエント学会において企画セッション「前近代イスラーム史料研究の新地平」を主催し、代表者の他、荒井悠太、杉山雅樹、久保亮輔の4名による研究発表と、礒貝健一、渡部良子の2名によるコメントを得たことで、史料校訂を含めた幅広い史料研究について関心を持つ多くの研究者との間で、議論の土台を築くことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中町信孝	4. 巻 93
2. 論文標題 オスマン朝時代におけるアラビア語稿本の受容：トルコ・イスラム美術博物館所蔵『真珠の首飾り』稿本群の分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 24-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/seinan-asia-kenkyu_93_24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Nobutaka Nakamachi	4. 巻 -
2. 論文標題 A Historiographical Analysis of the Four Chronicles Attributed to Badr al-Din al-Ayni	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Stephan Conerman and Toru Miura eds., Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517).	6. 最初と最後の頁 113-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Nobutaka Nakamachi
2. 発表標題 The Circulation of Arabic Manuscripts in the Ottoman Period: A Survey of the Manuscripts of Iqḍ al-Juman in Turk ve Islam Eserleri Muzesi
3. 学会等名 The eighth conference of the School of Mamluk studies（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中町信孝
2. 発表標題 アラビア語年代記史料校訂の実践と展望
3. 学会等名 日本オリエント学会第64回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
Frederic Bauden Online Lecture "What You Always Wanted to Know About ... Ecdotics and Were Afraid to Ask"	2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ベルギー	リエージュ大学			